

第35回 近畿高等学校総合文化祭 鳥取大会が大成功!!



総合開会行事 オープニング 書道パフォーマンス

平成27年11月14日(土)から22日(日)にかけて、本県で初開催となる近畿高等学校総合文化祭が県内4市2町の13会場で開催され、総合開会行事を始め15の部門大会で発表や交流を行いました。生徒実行委員会のメンバーや各部門の生徒が1年以上かけて企画や準備に取り組み、当日の進行や運営も中心となって行いました。大会には近畿2府8県から5,000人を超える生徒が参加し、一般観覧者も含め約12,000人が文化芸術の秋を楽しみました。

書道パフォーマンスで始まった初日の総合開会行事では、前半に各府県の代表生徒が地元紹介を行い、後半は県内で活躍する文化部員や特別支援学校生徒に韓国江原道の嶺西高校生徒も加わり、「ふるさと」をテーマに演奏や発表を行いました。最後は生徒実行委員会が考えた唱歌「ふるさと」の4番を披露し、手話を交えて参加者全員で合唱しました。



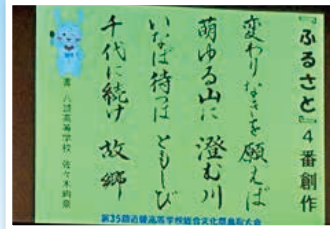
まんが 他府県・韓国アニメーション高校との交流制作



鳥取県合同合唱団と鳥取県合同弦楽合奏団による混声合唱・弦楽合奏「陣」



総合開会式 大会旗引継



「ふるさと」4番



総合開会行事 フィナーレの全員合唱



問合せ先 県教委高等学校課 電話 0857(26)7917 FAX 0857(26)0408



チャレンジ検定

教育委員会では、昨年度から、特別支援学校高等部生徒が身に付けた知識、技能、態度等を一定の基準により評価し認定することで、働く意欲の向上と就労の促進を目指し、「鳥取県特別支援学校技能検定」を実施しています。

今年度は平成27年12月3日(木)、県立琴の浦高等特別支援学校を会場に、清掃部門を実施しました。

昨年度から実施している、床及び机上清掃(マスター検定)、床清掃(チャレンジ検定)に加え、今年度は新種目として、じゅうたん床清掃及びガラス・窓枠清掃(マスター検定)とじゅうたん床清掃(チャレンジ検定)の4種目に38名の受検者が挑戦しました。

生徒たちは緊張しつつも、一人一人がしっかりと拭き、てきぱきとした動き、たくさんの清掃工程の確実さと丁寧さなど、普段の学習で身に付けた力を存分に発揮しました。国家検定ビルクリーニング技能士合格レベルに相当する清掃技術を発揮し、1級に認定された生徒も多数いました。新種目のじゅうたん床清掃及びガラス・窓枠清掃(マスター検定)

挑戦

鳥取県特別支援学校 技能検定開催!

磨かれた心と技術 自分の力を試せ!

では、1級認定者はありませんでしたが、「来年は必ず1級をとりたい」という生徒の声も聞かれました。閉会式で認定証の授与があった後、「やった!」とつぶやく生徒、友だちとハイタッチする生徒、それぞれの姿で喜びと充実感を表していました。



認定証授与

生徒の感想

僕は床及び机上清掃のマスター検定に出ました。去年も出た、2級でした。今年こそは1級を取ることが目標でしたので一生懸命練習に励みました。そして、当日がきました。本番では時間が経つにつれて緊張も増し、少々手順がわからなくなったところもありました。ですが、無事に目標の1級が取れて、とてもうれしかったです。

今回、初めて技能検定に参加しました。最初は、少しむずかかったのですが、練習していくうちにでききました。本番は、緊張しましたが、2級が取れて良かったです。来年は、チャレンジ検定で1級をめざしてがんばりたいと思います。

来年度は清掃部門に加え、喫茶サービス部門の実施検討を進めながら、生徒が身に付けた力を試す挑戦の場として、技能検定を実施する予定です。

問合せ先 県教委特別支援教育課 電話 0857(26)7575 FAX 0857(26)8101

鳥取商業高等学校 「地域の産業経済界をリードし、活躍する人」の育成をめざして

県立高校の取組



大盛況の鳥商デパート

第22回鳥商デパート ～鳥商教育の集大成～

今年度で22回目を迎えた鳥商デパートは、県東部地区の冬の風物詩として地域に定着した一大イベントです。「デパート」と銘打つからには、「100-1=0*」をモットーにワンランク上の接客をめざしています。

今回の目玉は、何と言っても若者のファッションリーダーである「SHIBUYA 109 NET SHOP」との提携です。前年度2月末に生徒経営委員会が発足し、生徒社長のリーダーシップの下、毎年進化した「新しい鳥デ」を企画し、全校生徒が準備していきます。

12月5日(土)6日(日)に開店した「鳥デ」のテーマは「つながる～心で織りなす鳥商デパート～」。ホームページ、フェイスブック、ツイッター等による販売促進が奏功し、お客様満足度90点以上(ネットアンケート実施)、来客者数1万人、売上1200万円という目標をほぼ達成しました(結果はそれぞれ95点、9530人、1260万円)。これは、寒風の中で汚れたタイヤを洗浄する駐車場係、お客様に気持ちよく使っていただきたい一心で励むトイレ清掃係、等々、多くの裏方の貢献なくしては不可能でした。

鳥商デパートは、2月の成果発表会をもって1年間のPDCAサイクルを閉じます。3月には新経営委員会が、ワンランク上の第23回「鳥デ」をスタートさせます。

100-1=0「1回の良くないサービスの印象が全体の印象をも悪くしてしまう」という意味

第2回鳥取県商業教育フォーラム ～日本一の商業教育をめざして～

全国トップレベルの商業高校に学ぶ生徒との交流を通して、①商業高校生としての「自覚と誇り」を持ち、②相互研鑽に励むことを目的として、昨年度から「鳥取県商業教育フォーラム」(第1部発表、第2部シンポジウム)を開催しています。

7月10日(金)に開催された第2回フォーラムでは、栃木県立宇都宮商業高校「めざせ 資格取得日本一」、滋賀県立八幡商業高校「近江商人再生プロジェクト」、熊本県立熊本商業高校「世界で戦える傑出した人材づくり」、本校「地域・時代の要請に応える「Creative」商業教育」の発表の後で、「地域から期待される商業高校とは」というテーマでシンポジウムを行いました。

3時間半にわたるフォーラムに、生徒たちは大いに触発され、実学である商業教育のすばらしさを再確認したようです。

問合せ先 県立鳥取商業高校 電話 0857(28)0156 FAX 0857(28)0157



タイヤの泥を洗う駐車場係



「専門教育の重要性」を力説する熊本商業高校



シンポジウム 「地域から期待される商業高校とは」

鳥取県のエキスパート教員

鳥取県では、優れた教育実践を行っている教員を「エキスパート教員」として認定し、教職員全体の指導力向上を図っています。今回は南部町立会見小学校の三浦 一美教諭(認定分野:学級経営)にお話を伺いました。

学校だいすき・友達だいすき・自分だいすき

今、小学校1年生を担当しています。「学校生活のスタートにあたる大事な1年間である」ということを特に意識しています。みんなで一緒に考えたり声を合わせたりすることの楽しさや、わからなかったことがわかるようになる嬉しさ、楽しさ等、学級の友だちと一緒に勉強することの楽しさを味わってほしいと思っています。また、固定化した友達関係にならないように、誰とでも一緒に活動したり、恥ずかしがったりすることなく自分を出せるようにいろいろな工夫をしています。例えば、体育の表現遊びや、教室でのレクリエーション等で一人一人の出番を設定し、それを受け入れ

てくれる仲間がいるという安心感のある学級をめざしています。さらに、児童はもちろん、保護者の方の仲間づくりに気を配っています。そして、何よりも一番大事なのが、「自分が大好き」という自己肯定感をもてる子に育てることです。そのためたくさん経験をしています。体験を通して学ぶことは多くあり、担任した一年間だけでなく、学校生活のいろいろな活動を通して、生涯にわたって生きて働く力をつけたいと思っています。

問合せ先 県教委小中学校課 電話 0857(26)7512 FAX 0857(26)8170

シリーズ プロ(文化財主事)が教える文化遺産のツボ! 第20回 指定文化財と登録文化財とヘリテージマネージャー



文化財主事 松本 絵理

近年、倉吉の白壁倶楽部や鳥取の五藏圓ビルなど、古い素敵な建物を活用している事例が増えてきていますが、それらの建物の多くに「登録文化財」と書かれた青銅のプレートが掲げられているのをご存じですか?この「登録文化財」は、国が平成8年に建造物(建築+土木構造物)の分野で始めた制度で、古くは明治時代から現在まで続く「指定文化財」制度とは異なるものです。近年は、庭園など建造物以外の分野へも広がっていますが、ここでは建造物についてお話します。

「指定文化財」とは、国や県、市町村がそれぞれの方針で選び指定するもので、例えば三仏寺投入堂や仁園閣は国指定の国宝・重要文化財です。指定文化財では文化財の改造に規制をかけることで、元の状態をなるべく残そうとします(これが“文化財になると釘一本打てない”と誤解される元ですが、実際はそんなことはありません)。修理の時には自治体が財政的支援を行い、元の材料を極力残しながら、価値を損ねないように慎重に修理をします。このように、厳選した文化財を手厚く保護する日本



県内登録文化財第一号の白壁倶楽部(倉吉大店会)

の文化財保護のあり方は世界的にも評価されています。しかし、もう少し自由に建物を使いたいという方にとっては、文化財指定は規制が多く、条件も厳しいことが難点でした。そこで、歴史的な建物を活用しながら残したい所有者や地元自治体が立候補し、審査を経て国がその価値を認める「登録文化財」という制度が生まれました。登録文化財は指定文化財に比べると財政的なメリットは少ないですが、改造への規制は緩く、価値が認められた国民の財産として位置づけられます。国民の財産という大層な気もしますが、築後50年以上経った趣きのある建物であれば、登録文化財として認められる可能性があります。

実際、鳥取県内でも、毎年数件から10数件のペースで登録文化財が増えており、最近では琴浦町の塩谷定好写真記念館、倉吉市の矢倉家住宅が登録され、県内の登録文化財(建造物)は188件になりました。江戸時代の建物は少なくなっていますが、明治・大正・昭和前期に建てられた「ちょっといいな」と思う建物は近くに沢山ありますよね。こういった身近な歴史的建造物をその地域の宝や資産として評価し、活用につなげる人材を増やそうと、平成27年度から県教育委員会と鳥取県建築士会が協力して「ヘリテージマネージャー(歴史文化遺産活用推進員)養成講座」を始めました。歴史的建造物の価値を知りたい・活用したいという方は、建築士会またはお近くの教育委員会へお気軽にご相談ください。



登録文化財プレート

問合せ先 県教委文化財課 電話 0857(26)7760 FAX 0857(26)8128 鳥取県の文化財情報HP(とっとり文化ナビ) <http://db.pref.tottori.jp/bunkazainavi.nsf/index.htm>

「ハニー・フブキ」 青谷上寺地蔵堂イメージキャラクター 作者 米子市 船澤 拓海さん

山奥にひっそりと住んでいる爺さんがぶったはにわ。性格はほとんど無口であり田舎を好む青年(?)フブキが作る米はとてもうまいらしい...